

### 3. 分野別取組について

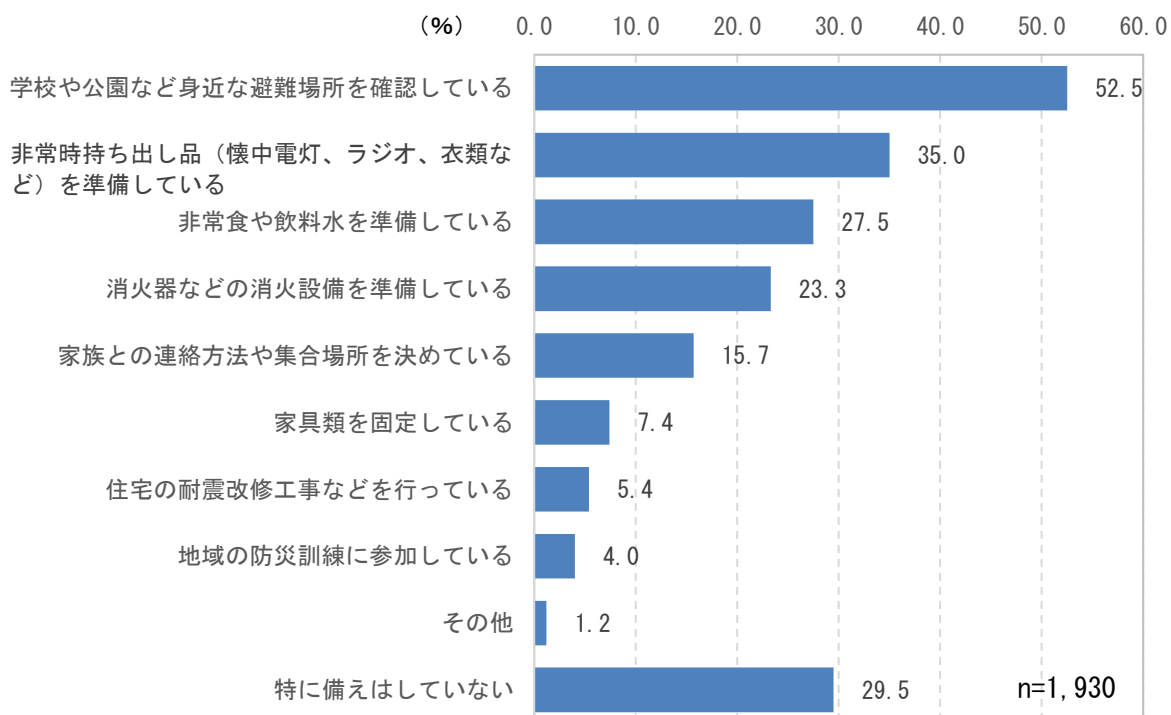
#### 【防災対策について】

問7

あなたが、地震や風水害などの自然災害に備えて、ご自宅で行っていることは何ですか。  
(〇はいくつでも)

#### 【調査結果 (ポイント)】

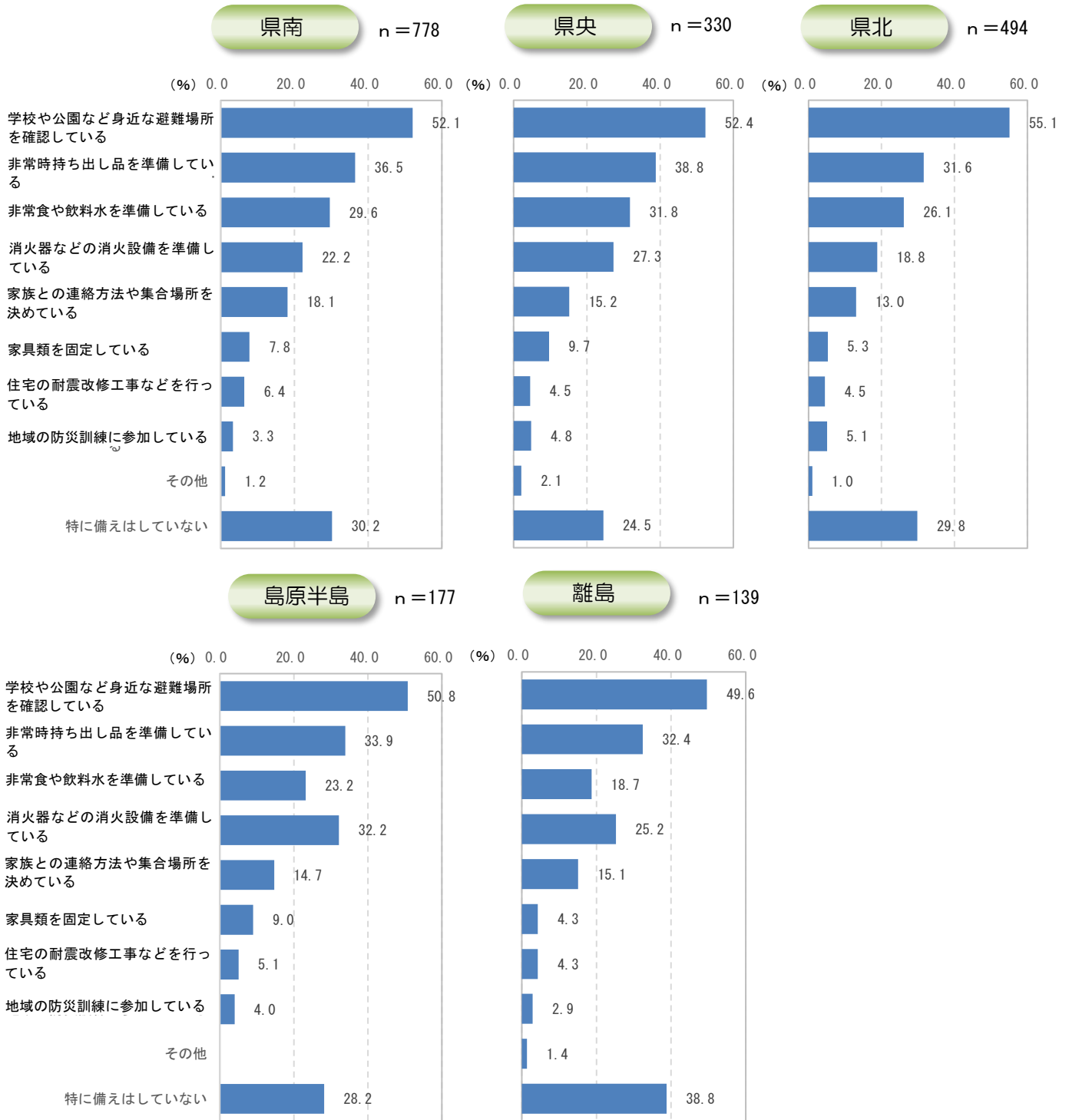
「学校や公園など身近な避難場所を確認している」が5割強でトップ



自然災害に備えて、自宅で行っていることは、「学校や公園など身近な避難場所を確認している」が52.5%で最も多く、次いで、「非常時持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、衣類など）を準備している」が35.0%、「非常食や飲料水を準備している」が27.5%と続いている。

一方、「特に備えはしていない」は29.5%となっている。

【地域別】

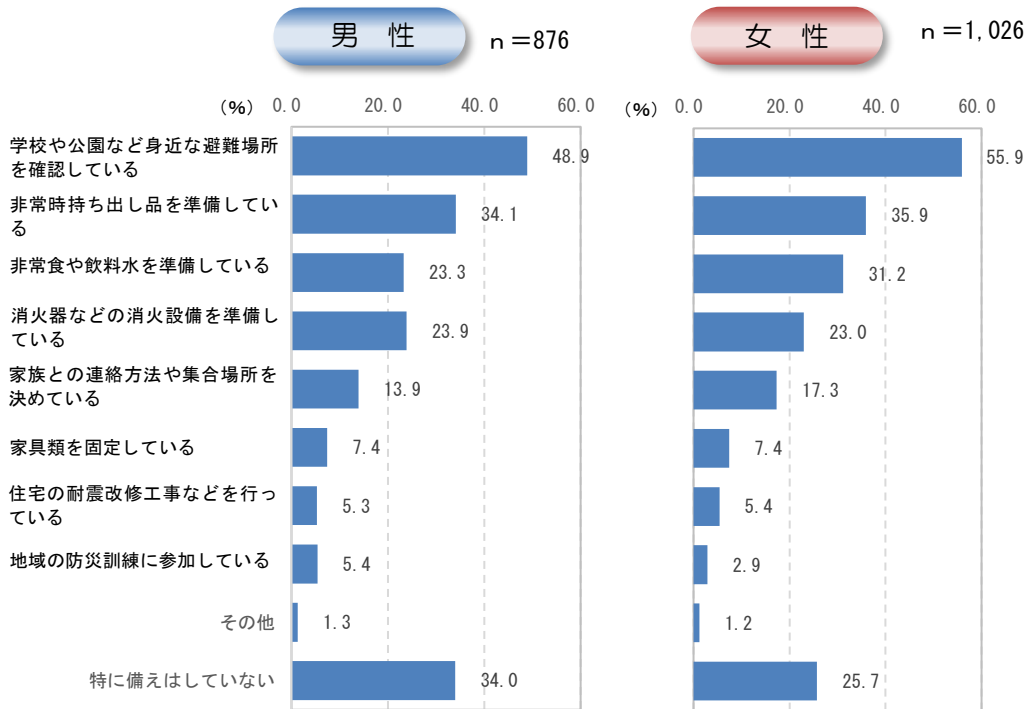


【地域別】

上位5項目における全体の傾向との相違について県南地域・県央地域・県北地域では相違は見られないが、島原半島地域・離島地域では「消火器などの消火設備を準備している」が3位、「非常食や飲料水を準備している」が4位となっている。

一方、「特に備えはしていない」は離島地域が38.8%で最も多くなっている。

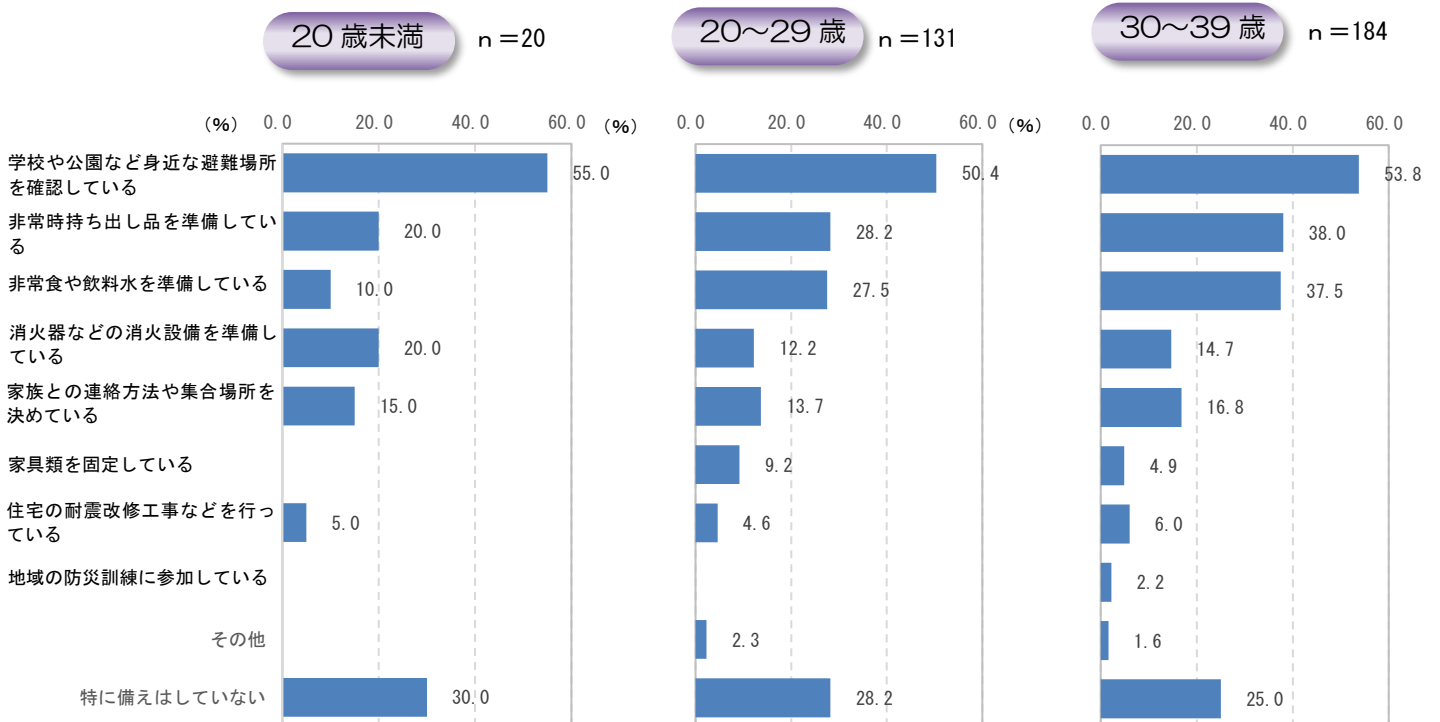
## 【性別】

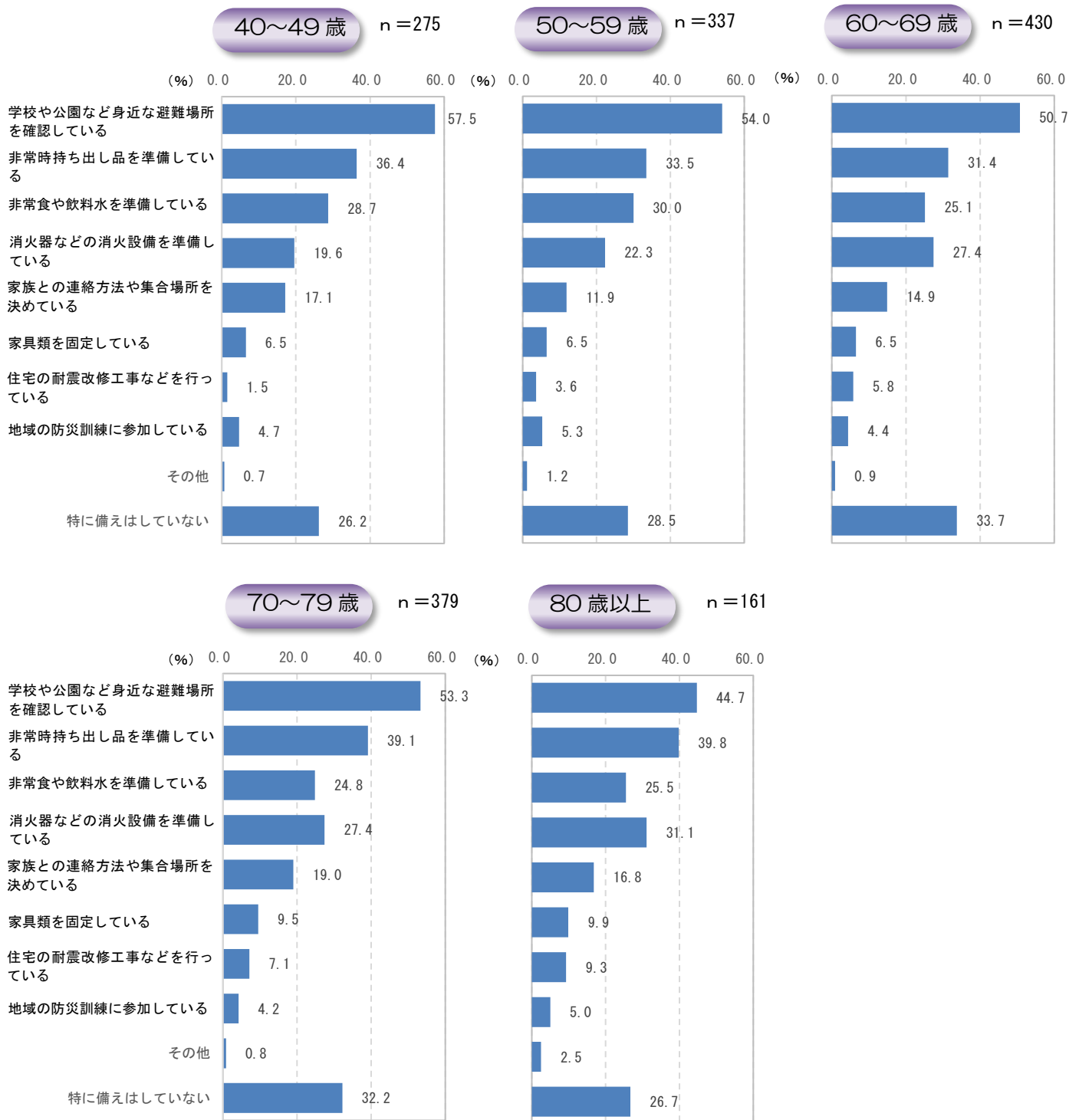


### 【性別】

全体の傾向との上位5項目における相違については、女性の順位の変動はないが、男性は「消火器などの消火設備を準備している」が3位に繰り上がっている。

## 【年齢別】





〔年齢別〕

年齢の変化により、上位5項目で変動が見られるのは、20歳未満では「非常時持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、衣類など）を準備している」が2位、「家族との連絡方法や集合場所を決めている」が4位、20歳代・30歳代では「家族との連絡方法や集合場所を決めている」が4位、60歳代・70歳代・80歳以上では「消火器などの消火設備を準備している」が3位、40歳代・50歳代では全体の傾向との相違はない。

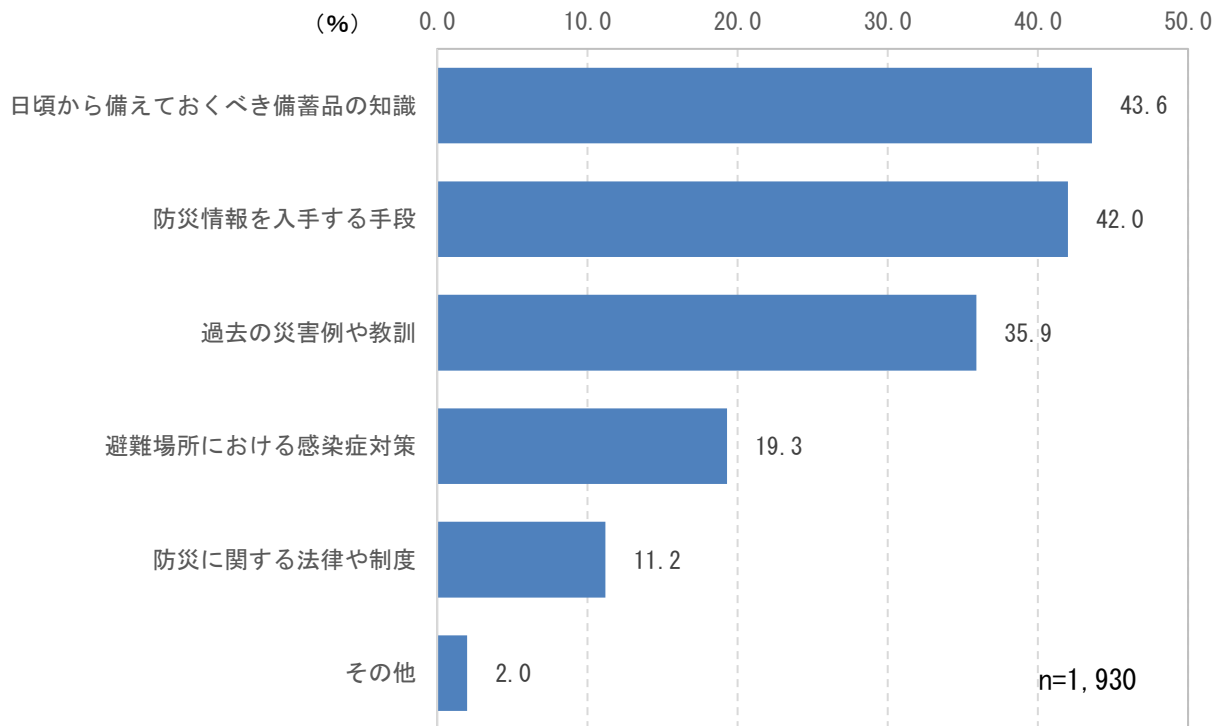
また、「特に備えはしていない」が最も多いのは60歳代の33.7%となっている。

問 8

あなたが、多発する自然災害から、自らの命を守る（自助）力を高めるために、身に付けたいことは何ですか（〇は2つまで）

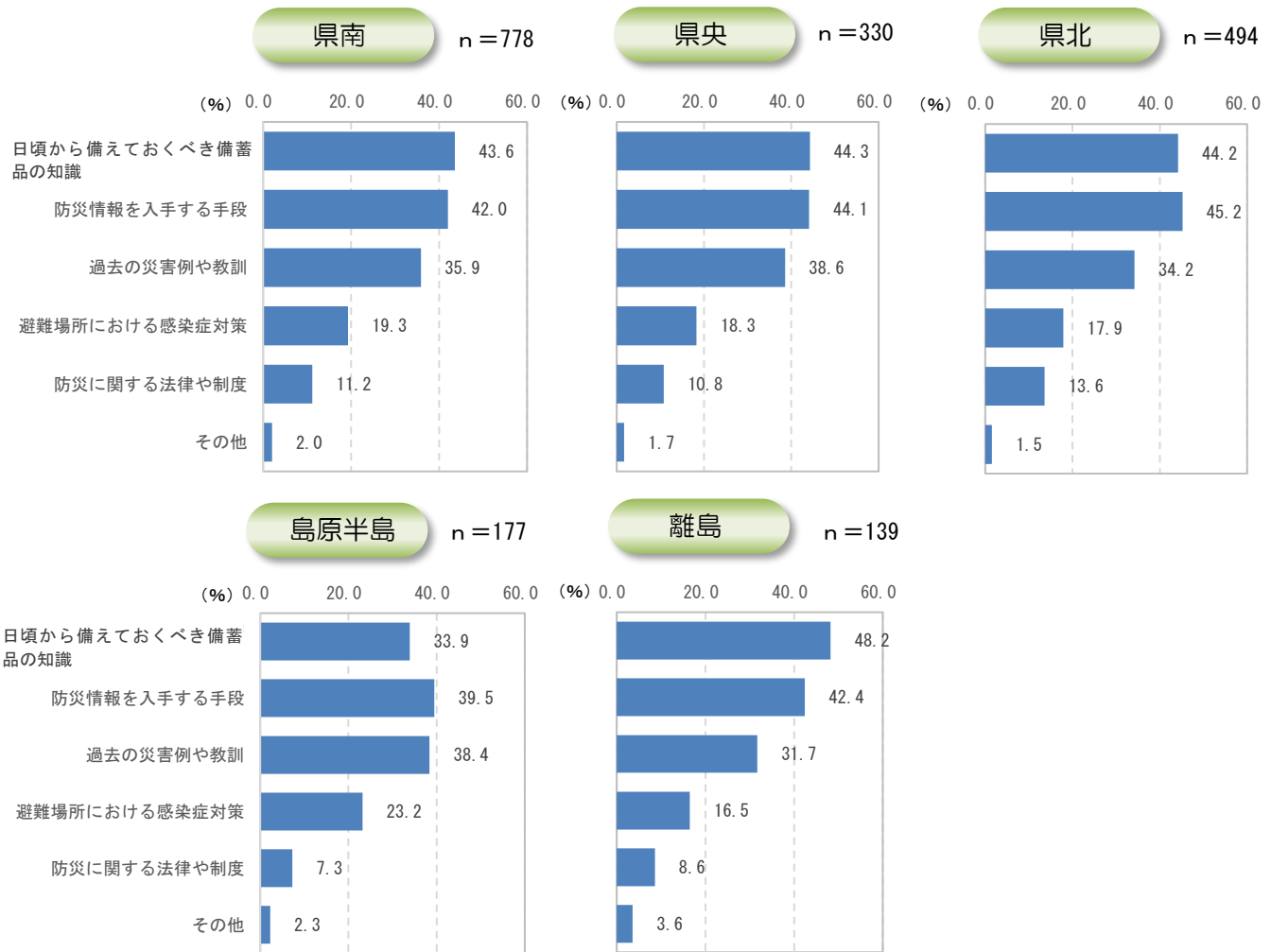
【調査結果（ポイント）】

「日頃から備えておくべき備蓄品の知識」が4割強でトップ



自らの命を守る（自助）力を高めるために、身に付けたいことは、「日頃から備えておくべき備蓄品の知識」が43.6%で最も多く、次いで、「防災情報を入手する手段」が42.0%、「過去の災害例や教訓」が35.9%と続いている。

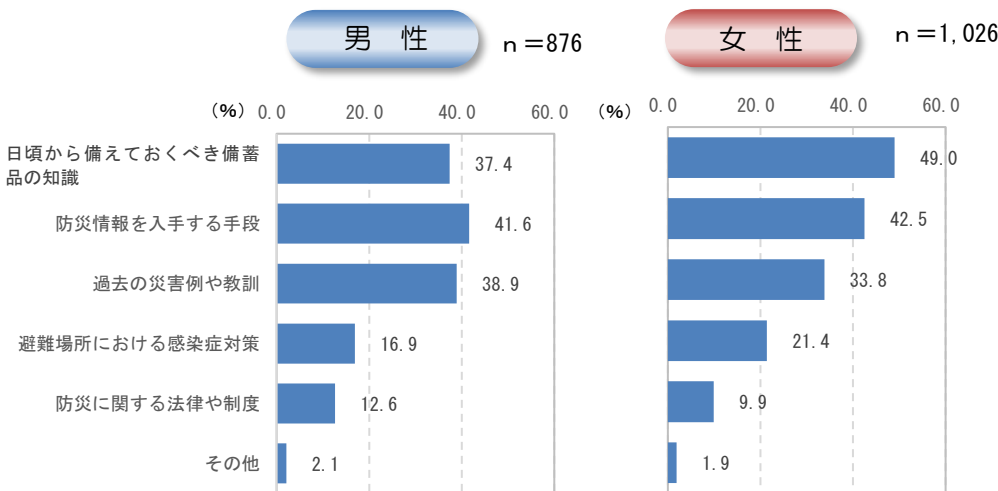
【地域別】



〔地域別〕

上位5項目において県南地域・県央地域・離島地域では全体の傾向との相違は見られないが、県北地域では「防災情報を入手する手段」が1位、島原半島地域では「防災情報を入手する手段」が1位、「過去の災害例や教訓」が2位となっている。

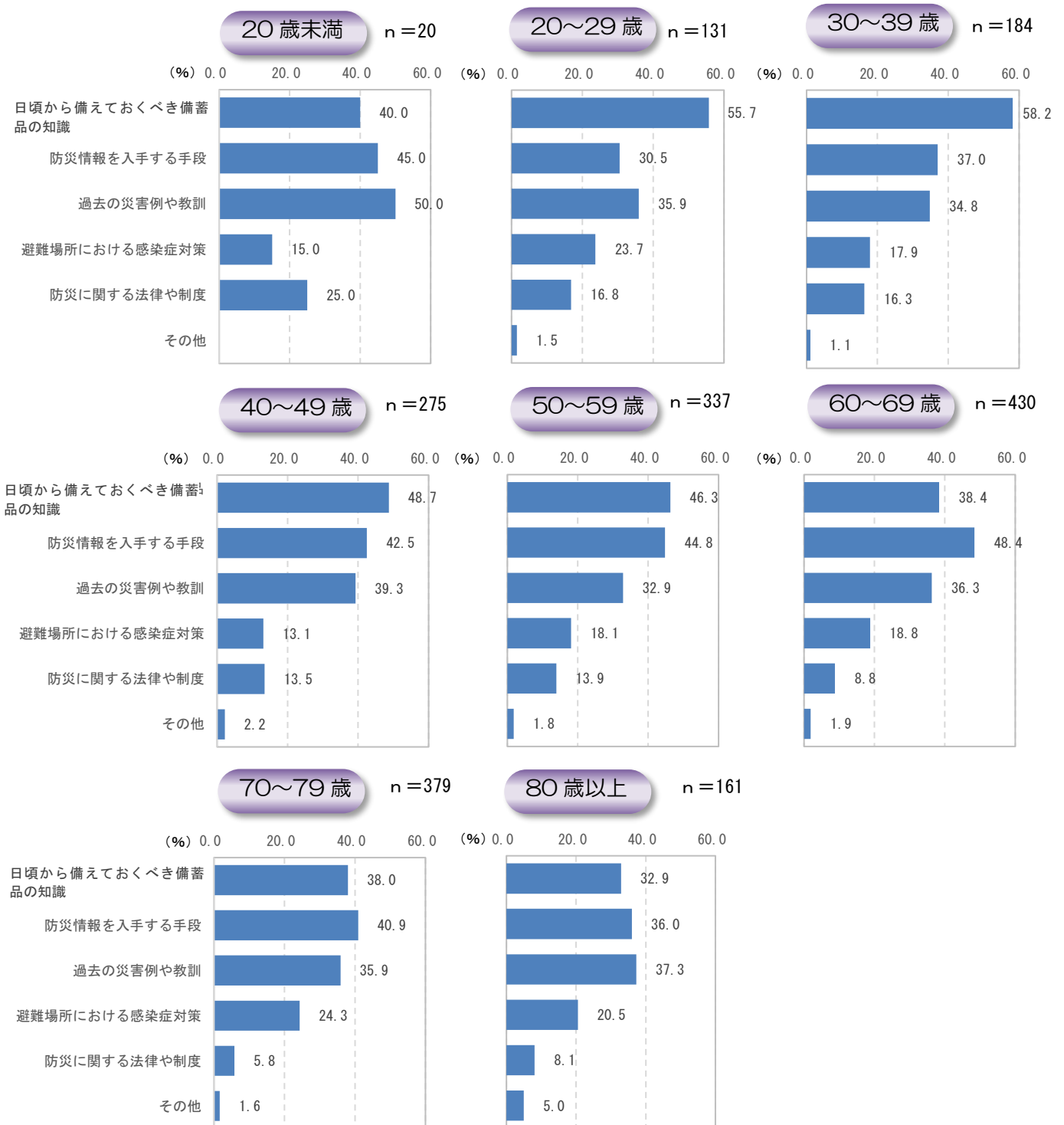
【性別】



〔性別〕

上位5項目における全体との相違については、男性で「日頃から備えておくべき備蓄品の知識」が3位に下がり、「防災情報を入手する手段」が1位となっている。

【年齢別】



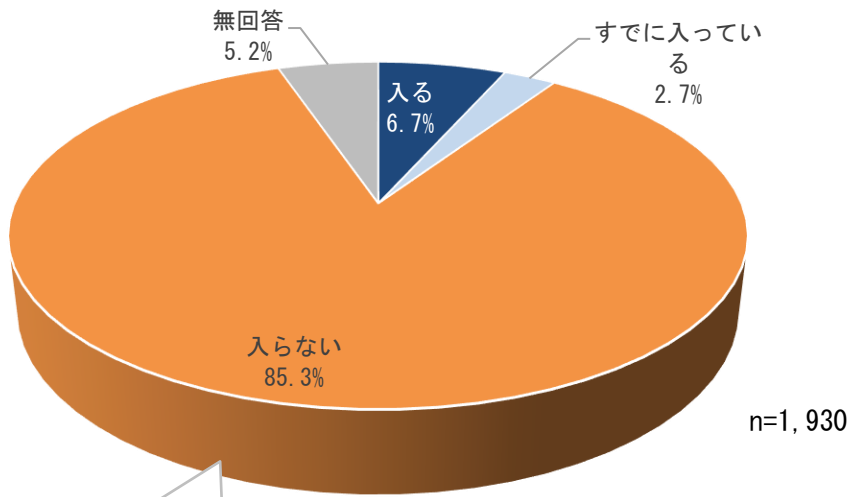
〔年齢別〕

年齢の変化により、上位5項目で変動が見られるのは、20歳未満では「日頃から備えておくべき備蓄品の知識」が3位に下がり、「過去の災害例や教訓」が1位に、20歳代では「過去の災害例や教訓」が2位、「防災情報を入手する手段」が3位と入替わり、60歳代・70歳代では「日頃から備えておくべき備蓄品の知識」が2位に下がり、「防災情報を入手する手段」が1位となっている。

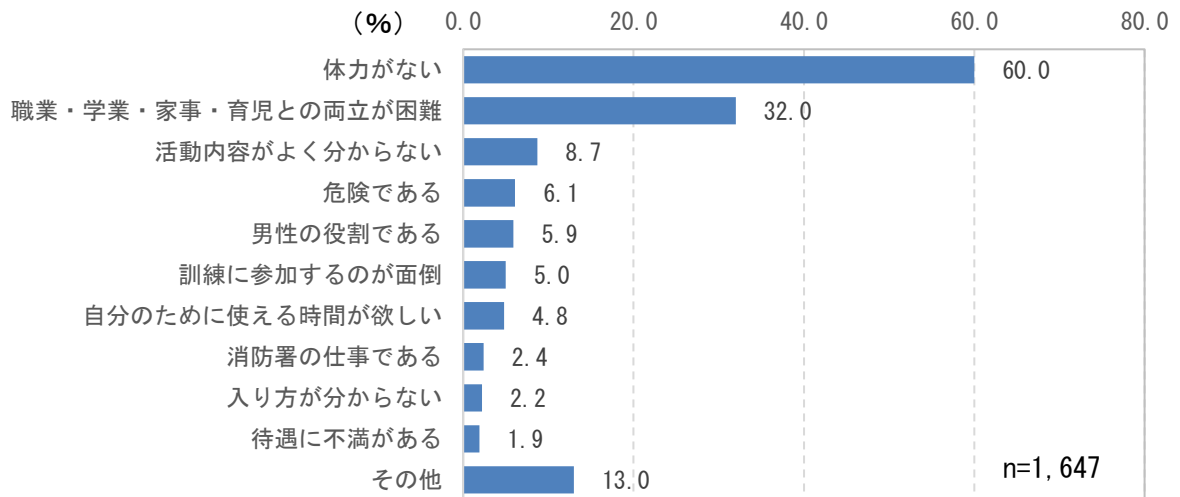
あなたは消防団に入りたいと言われたらどうしますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

**入らない理由のトップは「体力がない」で6割**



【「入らない」を選んだ理由】

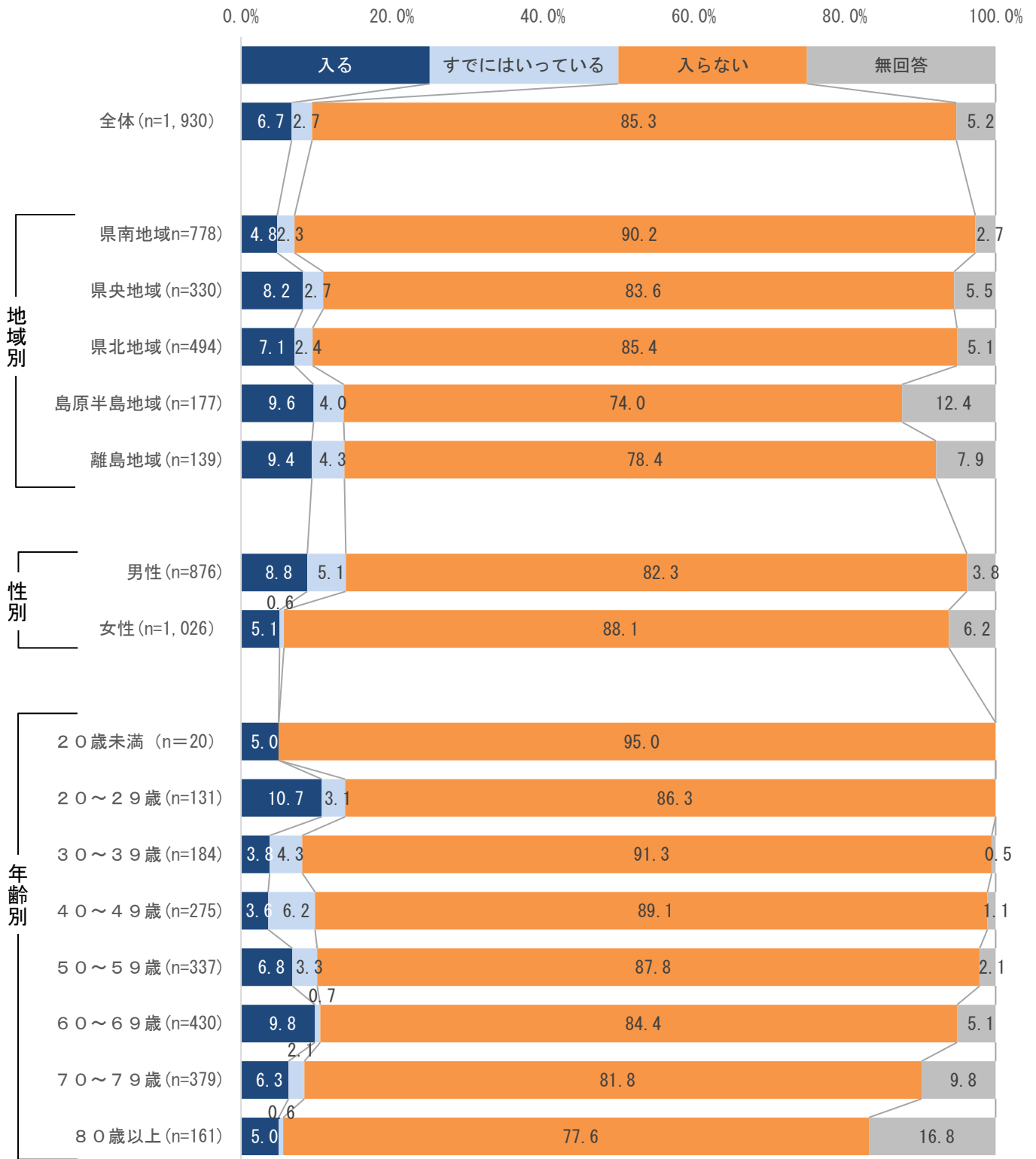


消防団に入りたいと言われたら「入らない」が85.3%で最も多く、次いで、「入る」が6.7%、「すでに入っている」が2.7%となっている。

「入らない」理由は「体力がない」が60.0%で最も多く、次いで「職業・学業・家事・育児との両立が困難」が32.0%、「活動内容がよく分からない」が8.7%の順で続いている。



【地域別・性別・年齢別入団意向の比較】



【地域別】

入団意向（「入る」＋「すでに入っている」）の高いのは「離島地域」が13.7%、次いで「島原半島地域」が13.6%、「県央地域」が10.9%、「県北地域」が9.5%、「県南地域」が7.1%の順となっている。

【性別】

入団意向は「男性」が13.9%、「女性」が5.7%となっている。

【年齢別】

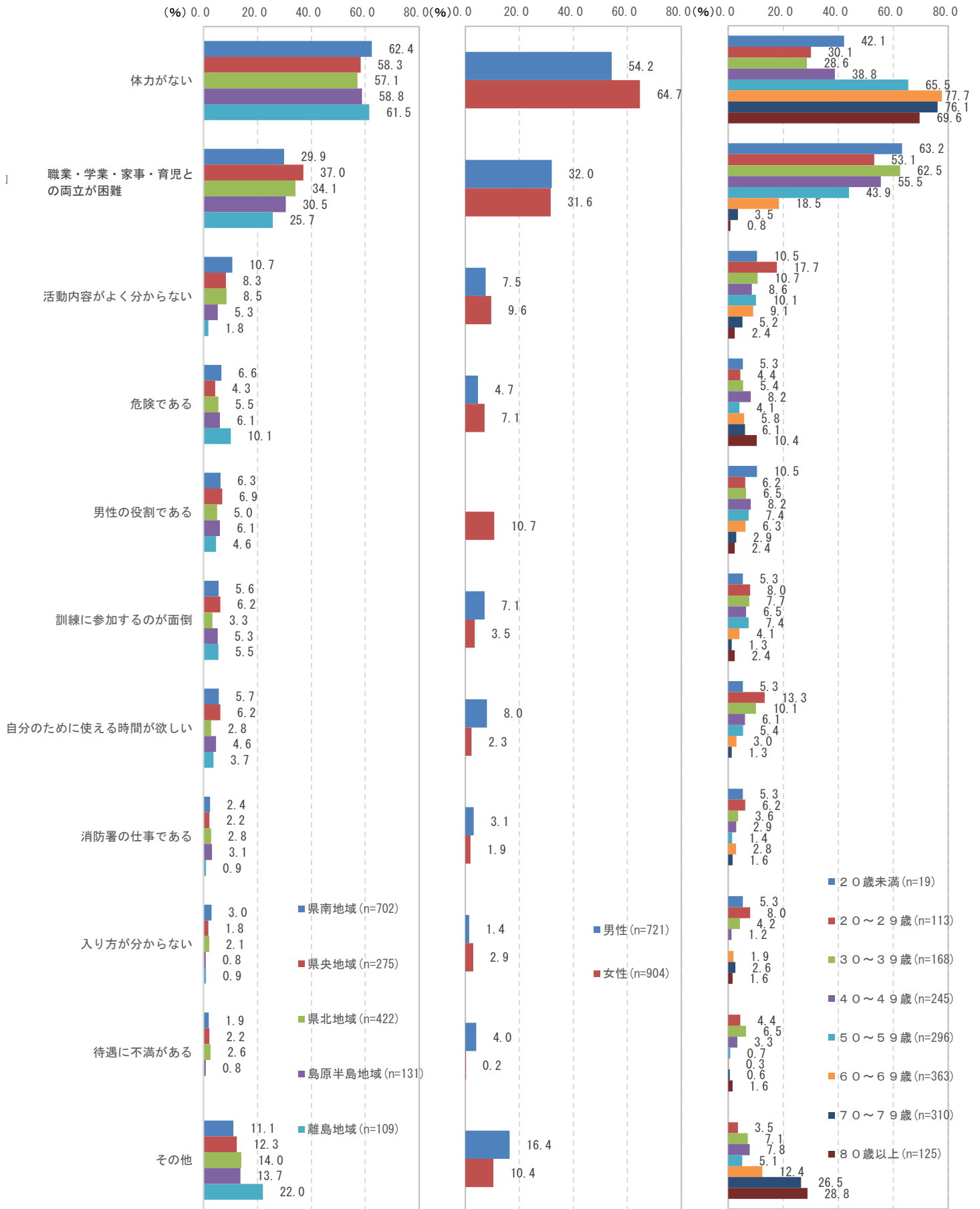
入団意向が最も高いのは「20歳代」の13.8%、次いで「60歳代」が10.5%、「50歳代」が10.1%と続いている。

【地域別・性別・年齢別「入らない」を選んだ理由】

【地域別】

【性別】

【年齢別】

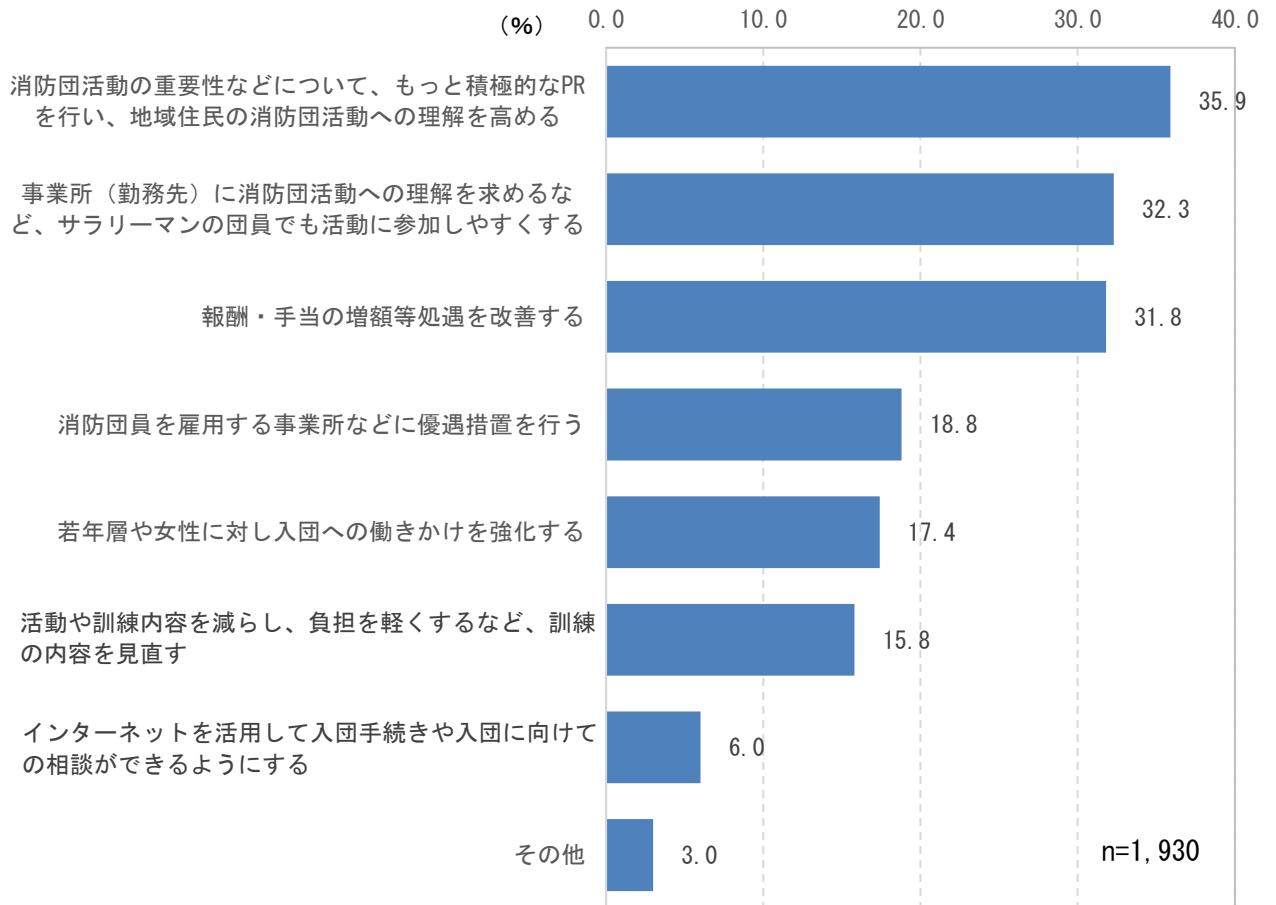


問10

あなたは、消防団員が年々減少するなか、今後、消防団への加入者を増加させていくためにはどのようにしたら良いと思いますか（〇は2つまで）

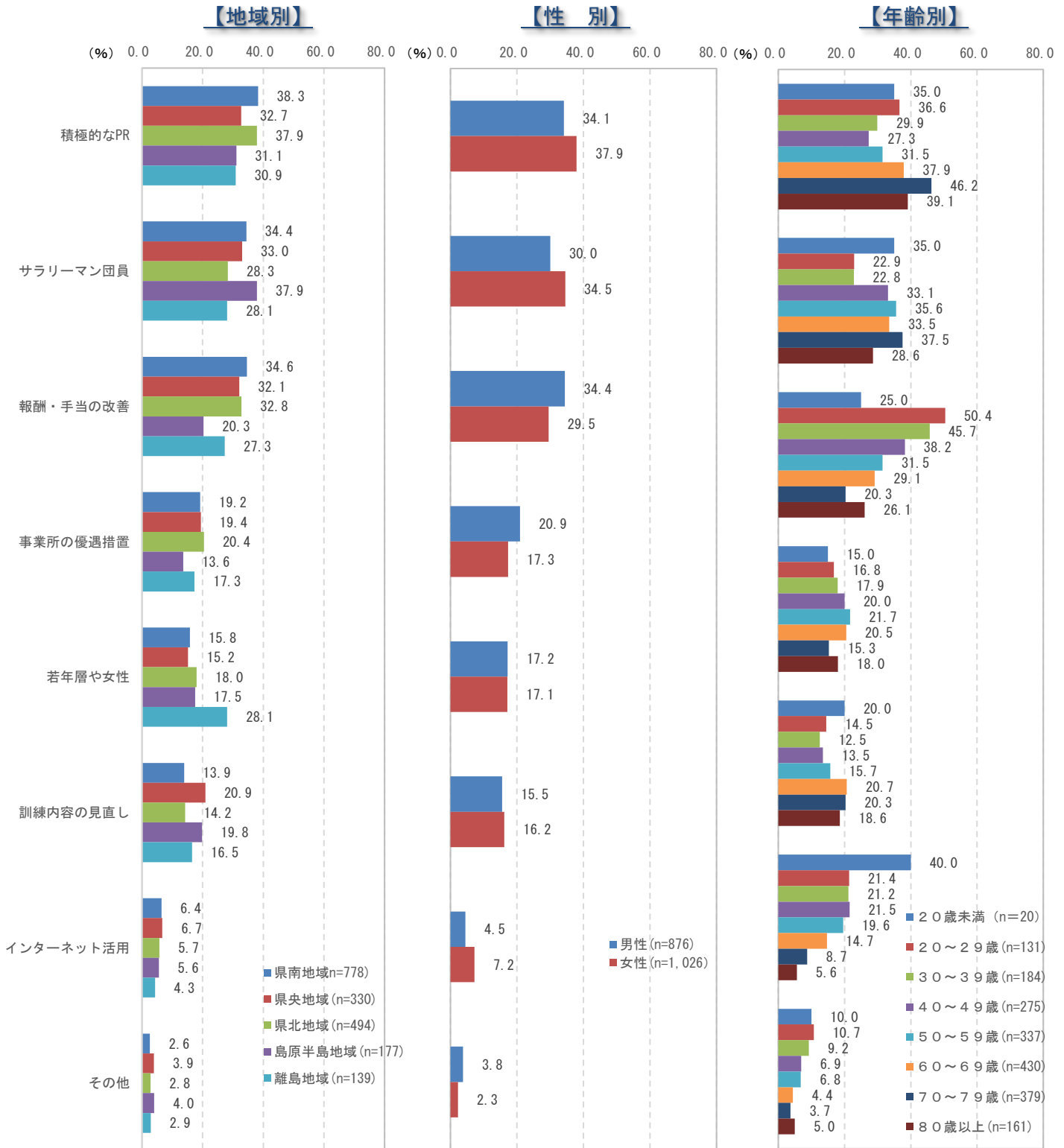
【調査結果（ポイント）】

**「消防団活動の重要性などについて、もっと積極的なPRを行い、地域住民の消防団活動への理解を高める」が約4割でトップ**



消防団への加入者を増加させていくためには、「消防団活動の重要性などについて、もっと積極的なPRを行い、地域住民の消防団活動への理解を高める」が35.9%で最も多く、次いで、「事業所（勤務先）に消防団活動への理解を求めるなど、サラリーマンの団員でも活動に参加しやすくする」が32.3%、「報酬・手当の増額等処遇を改善する」が31.8%と続いている。

【地域別・性別・年齢別比較】



【地域別】

「若年層や女性に対し入団への働きかけを強化する」については、離島地域が他地域と比べ高くなっている。

【性別】

多少のばらつきが見られるものの全体の傾向との相違は見られない。

【年齢別】

「報酬・手当の増額等処遇を改善する」は年齢の上昇とともに減少が見られるが、20歳代で50.4%と最も高くなっている。

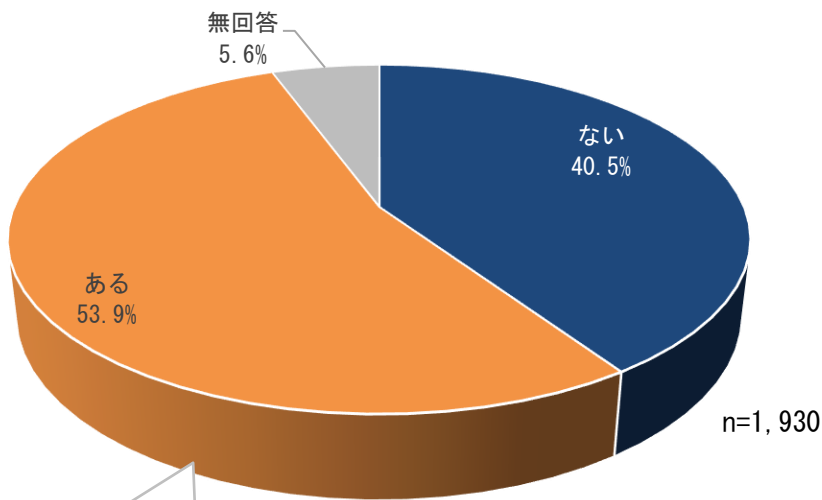
## 【だれもが活躍できる社会づくりについて】

問1

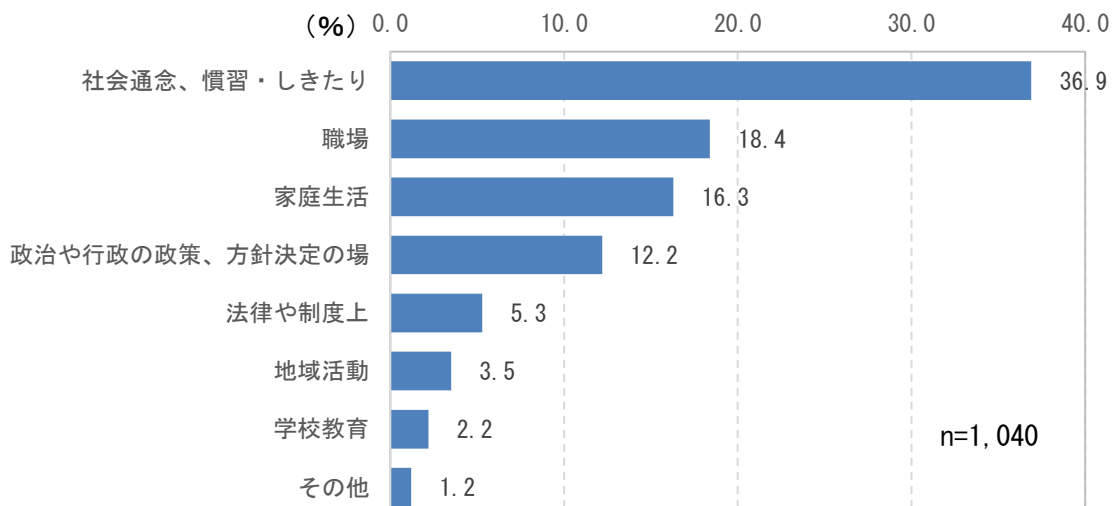
あなたは、普段の生活の中で、男女不平等であると感じることがありますか。また、「ある」と回答した方はどの場面で一番不平等だと感じますか。(〇は1つ)

### 【調査結果 (ポイント)】

男女不平等であると感じることは5割強が「ある」と回答  
一番不平等に感じるのは「社会通念、慣習・しきたり」で約4割



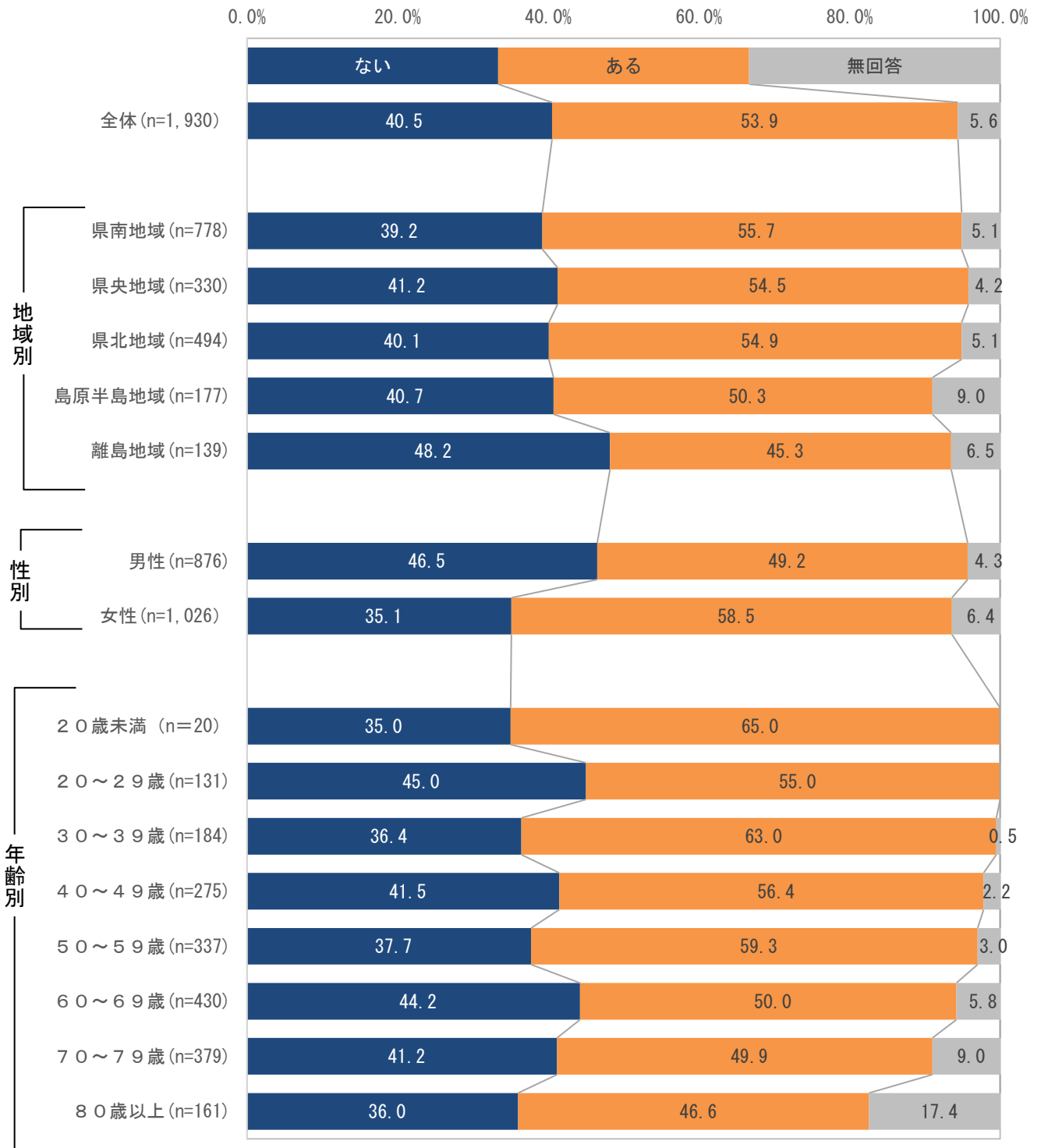
### 【一番不平等だと感じること】



男女不平等に関して「ある」が53.9%、「ない」は40.5%となっている。

一番不平等だと感じることは「社会通念、慣習・しきたり」が36.9%で最も多く、次いで「職場」が18.4%、「家庭生活」が16.3%の順が続いている。

【不平等の有無：地域別・性別・年齢別比較】



〔地域別〕

男女不平等が「ある」と回答したのが最も多いのは、「県南地域」の 55.7%、次いで「県北地域」が 54.9%、「県央地域」が 54.5%、「島原半島地域」が 50.3%、「離島地域」が 45.3%の順となっている。

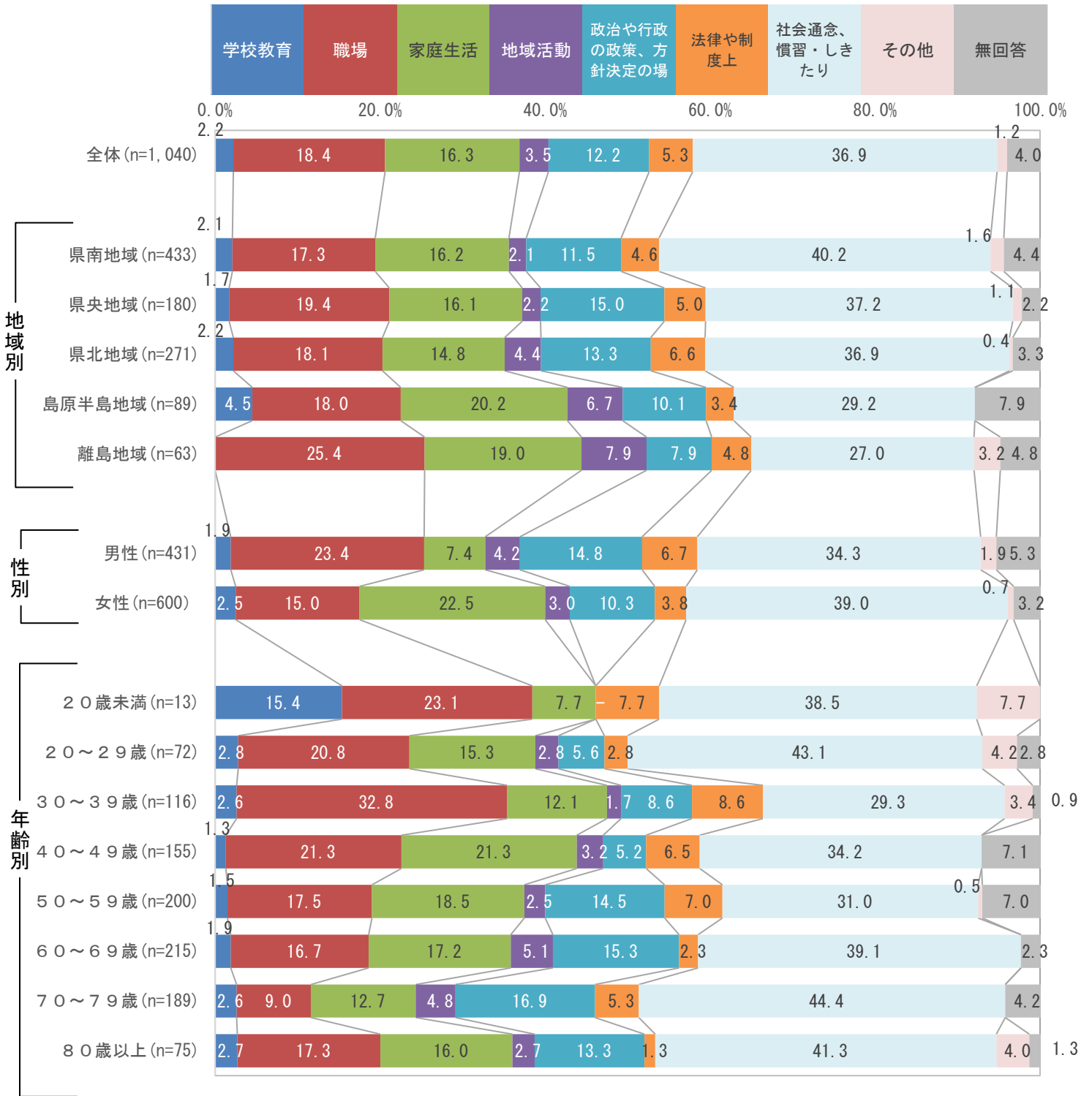
〔性別〕

男女不平等感は「男性」が 49.2%、「女性」が 58.5%と「女性」が 9.3ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

男女不平等感が最も高いのは「20歳未満」が 65.0%、次いで「30歳代」が 63.0%、「50歳代」が 59.3%と続いている。

【不平等の場面：地域別・性別・年齢別比較】



【地域別】

男女不平等の場面では地域の差が表れており、1位の「社会通念、慣習・しきたり」は「県南地域」は「離島地域」よりも13.2ポイント高くなっており、2位の「職場」では「離島地域」が「県南地域」よりも8.1ポイント高くなっている。

【性別】

男女不平等の場面の差は「家庭生活」に顕著に表れており、不平等の場面として「男性」が7.4%であったのに対し、「女性」が22.5%と15.1ポイント高くなっている。

【年齢別】

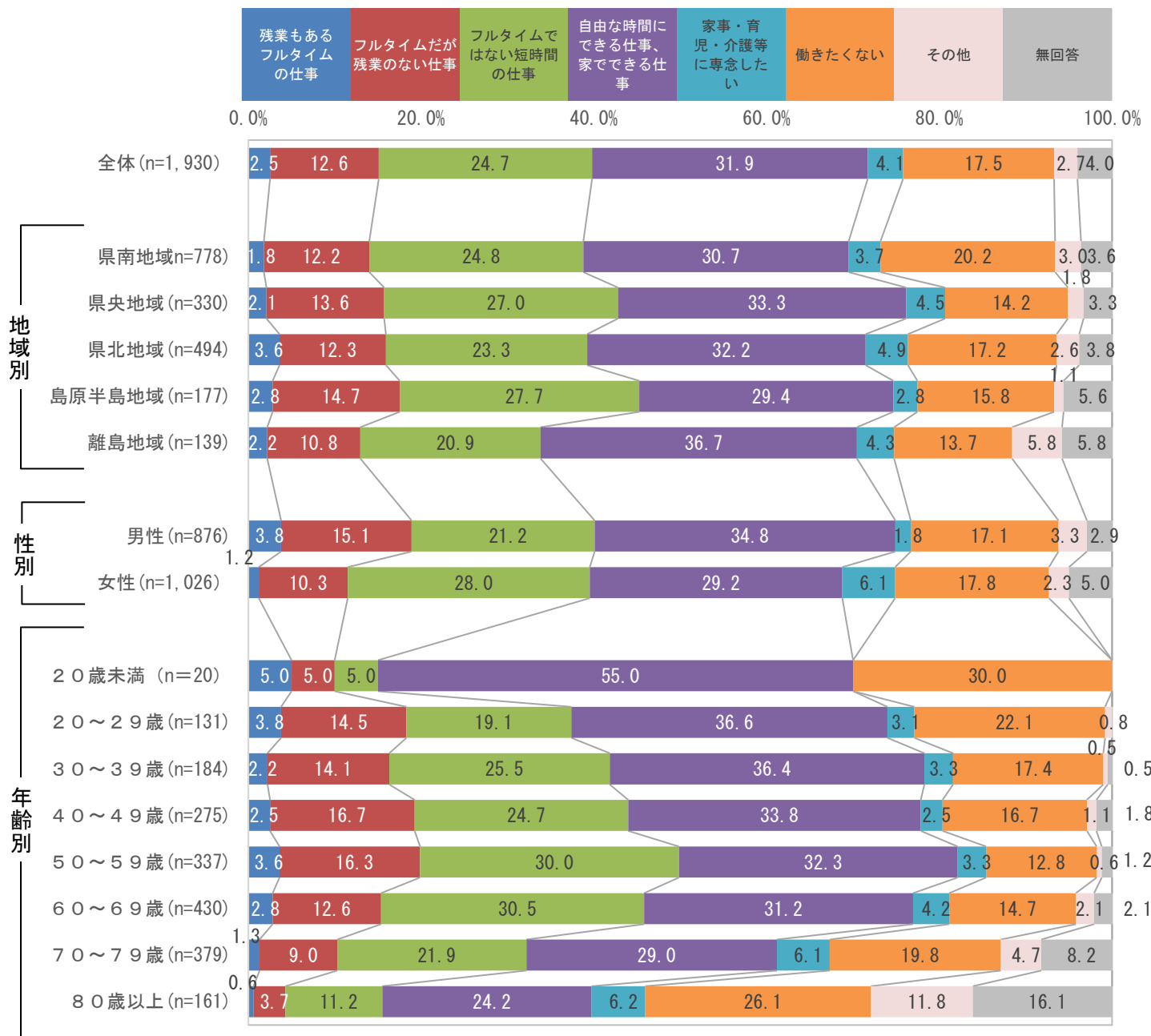
男女不平等の場面は年代でのバラツキが大きい。1位の「社会通念、慣習・しきたり」では「70歳代」と「30歳代」では15.1ポイントの差が開いており、2位の「職場」では「30歳代」と「70歳代」で23.8ポイントの差が開いている。

問 12

あなたが65歳以降の高齢期を迎えたときに（65歳以上の方は現在）希望する働き方はどのような形態ですか。（〇は1つ）

【調査結果（ポイント）】

「自由な時間に行える仕事、家でできる仕事」が3割でトップ



〔全体〕

高齢期を迎えての働き方は「自由な時間に行える仕事、家でできる仕事」が31.9%で最も多く、次いで「フルタイムではない短時間の仕事」が24.7%、「働きたくない」が17.5%の順で続いている。

〔地域別〕

地域によるバラツキは見られるものの全体の傾向との相違は見られない。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られない。

〔年齢別〕

年齢別で「自由な時間に行える仕事、家でできる仕事」は年齢の上昇とともに減少し、「フルタイムではない短時間の仕事」は年齢に上昇とともに増加し「60歳代」を上限に減少に転じている。また、「働きたくない」は年齢の上昇とともに減少し「50歳代」を下限に増加に転じている。

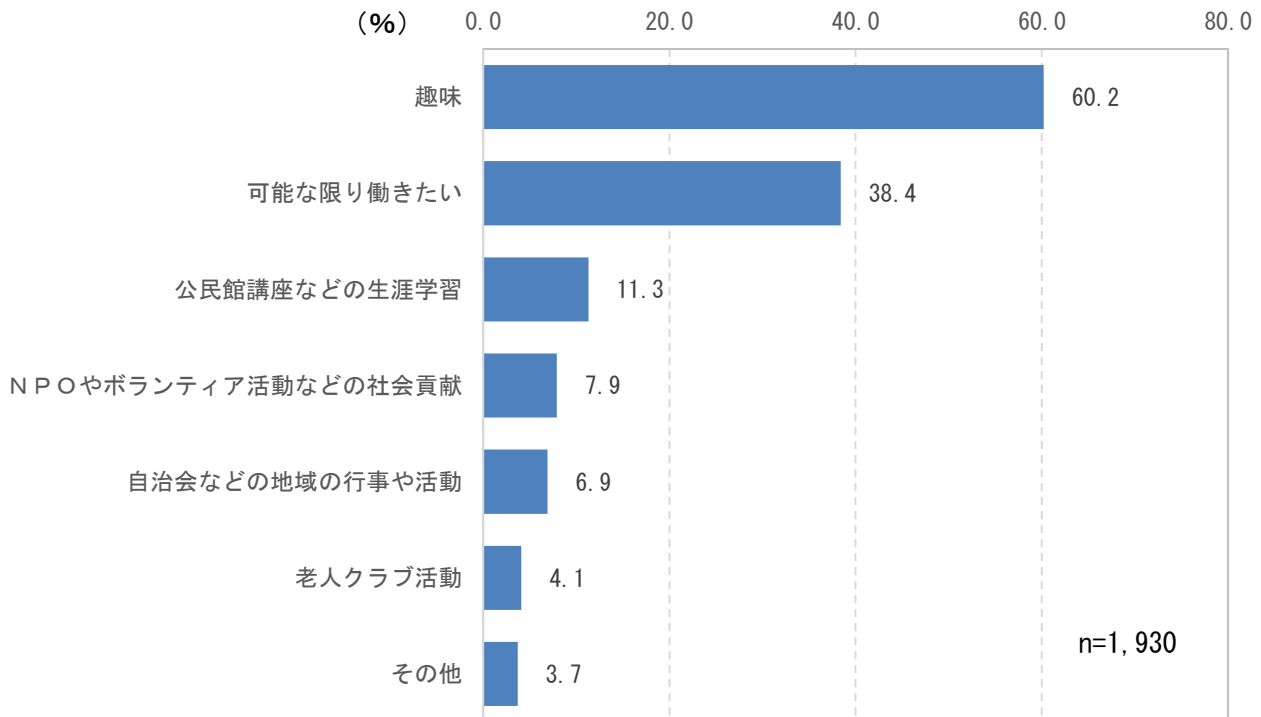


問 13

あなたが65歳以降の高齢期を迎えたときに（65歳以上の方は現在）行いたいことは何ですか。（〇は2つまで）

【調査結果（ポイント）】

「趣味」が6割でトップ



〔全体〕

高齢期を迎えての行いたいことは「趣味」が60.2%で最も多く、次いで「可能な限り働きたい」が38.4%、「公民館講座などの生涯学習」が11.3%の順で続いている。

〔地域別〕

地域によるバラツキは見られるものの全体の傾向との相違は見られない。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られない。

〔年齢別〕

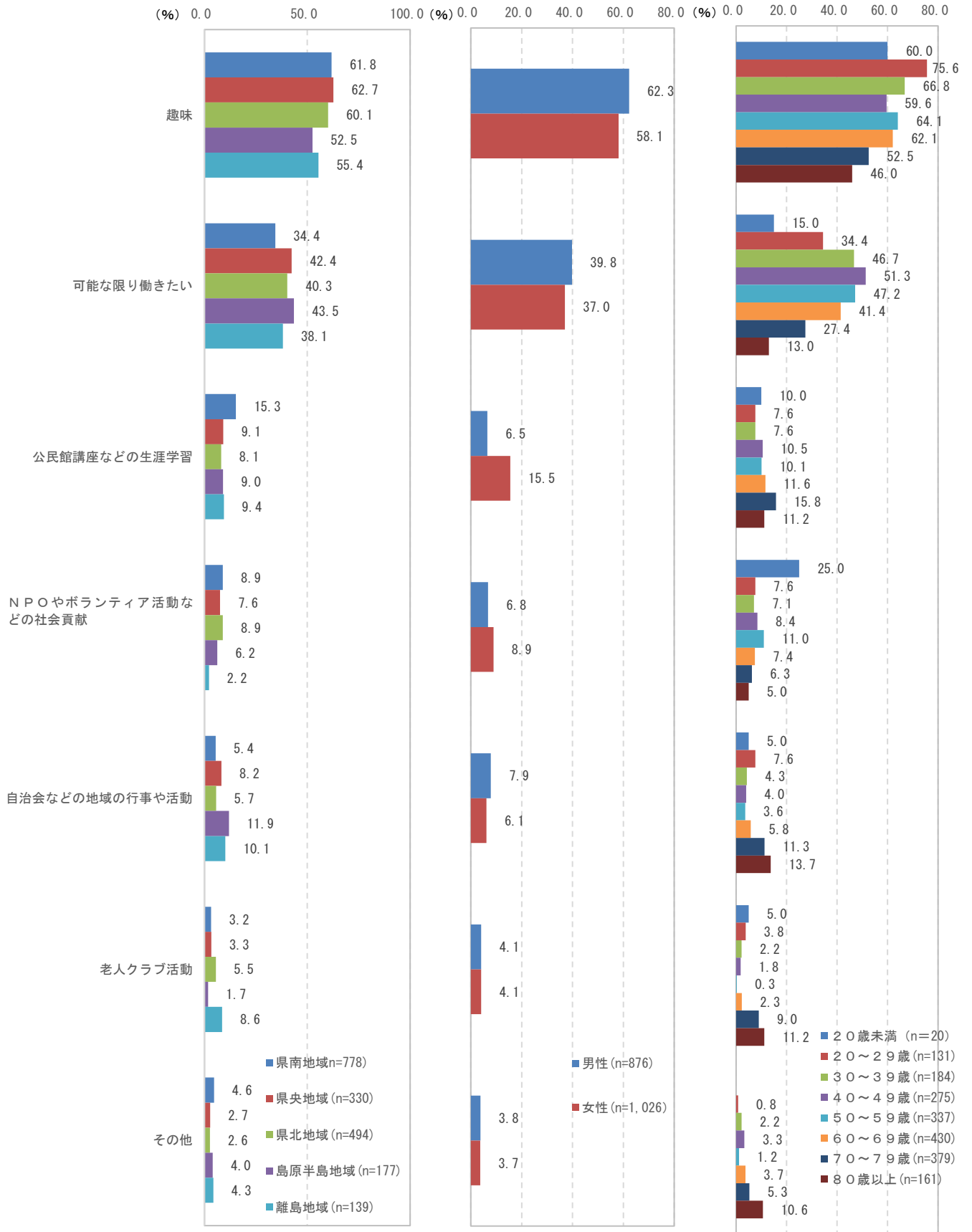
年齢別で「趣味」は年齢の上昇とともに減少傾向にあり、「可能な限り働きたい」は年齢の上昇とともに増加し「40歳代」を上限に減少に転じている。

【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

【年齢別】

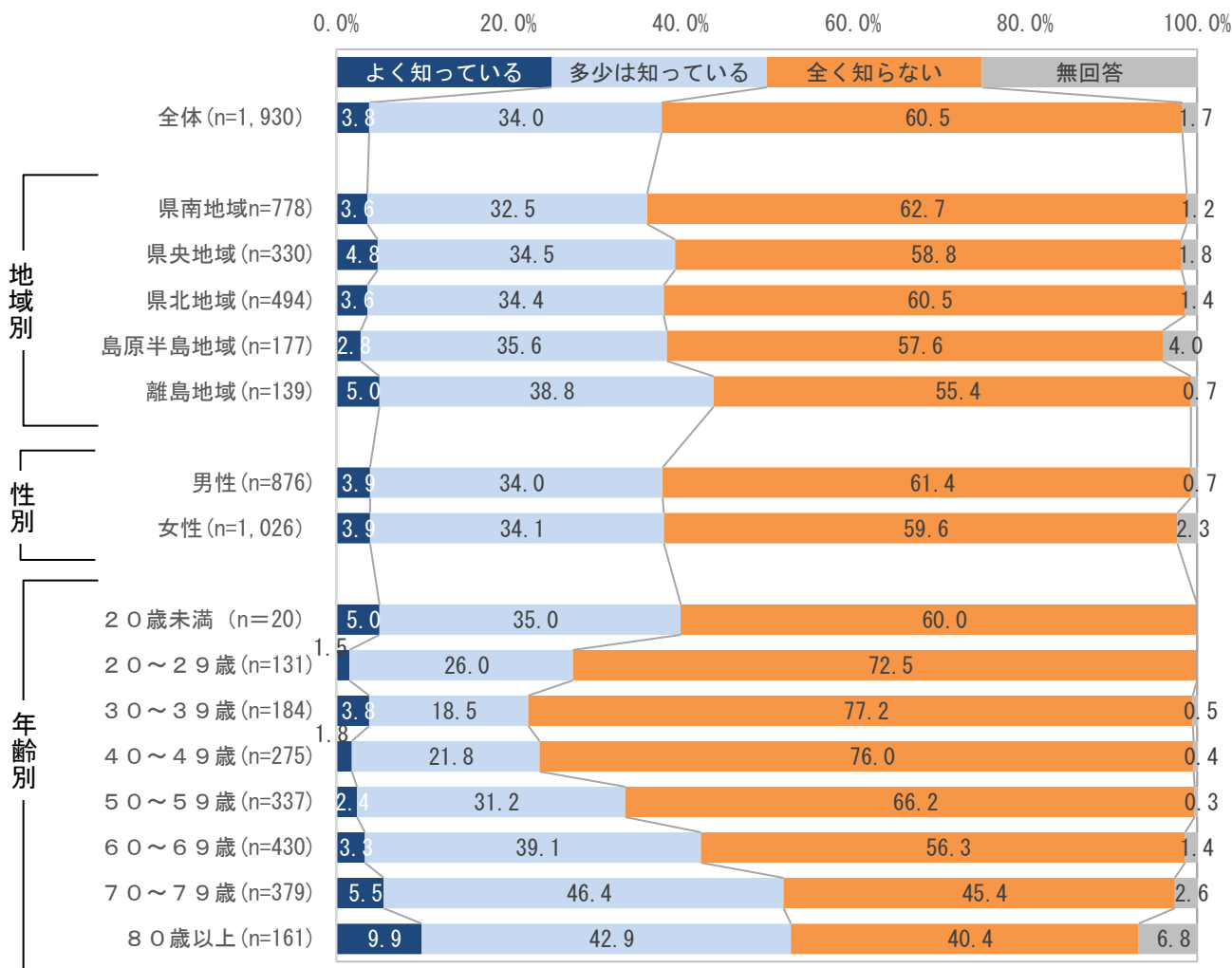


問 14

あなたは、障害のある人に対する差別の禁止を定めた「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」を知っていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」の認知度は約4割



【全体】

「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」について「全く知らない」が60.5%で最も多く、認知度（「よく知っている」+「多少は知っている」）は37.8%であった。

【地域別】

地域別における全体の傾向との相違は見られず、認知度は「離島地域」が43.8%で最も高く、次いで「県央地域」が39.3%、「島原半島地域」が38.4%と続いている。

【性別】

性別でも全体の傾向との相違は見られず、認知度は男女ともほぼ同率となっている。

【年齢別】

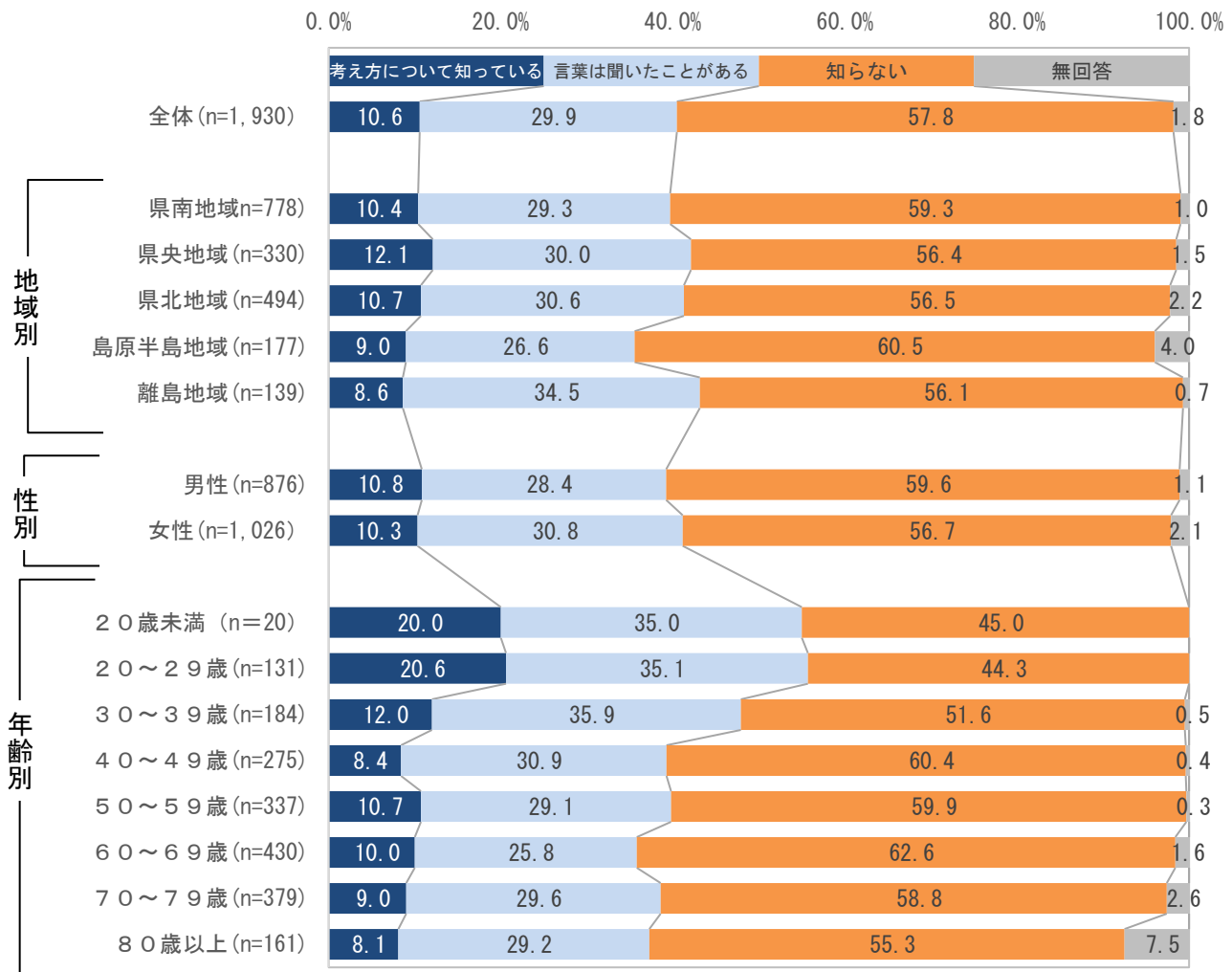
年齢別での認知度は、「80歳以上」が52.8%と最も高く、次いで「70歳代」が51.9%、「60歳代」が42.4%と年齢の上昇とともに認知度が上がっている

問 15

障害のある人が障害のない人と同じように生活できるよう、無理のない範囲で必要な変更や工夫を行うことを「合理的配慮」といいます。あなたは、この「合理的配慮」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「合理的配慮」の認知度は約4割



【全体】

「合理的配慮」について「知らない」が57.8%で最も多く、認知度（「合理的配慮の考え方について知っている」+「合理的配慮という言葉は聞いたことがある」）は40.5%であった。

【地域別】

地域別における全体の傾向との相違は見られず、認知度は「離島地域」が43.1%で最も高く、次いで「県央地域」が42.1%、「県北地域」が41.3%と続いている。

【性別】

性別でも全体の傾向との相違は見られず、認知度は女性の方が1.9ポイント高くなっている。

【年齢別】

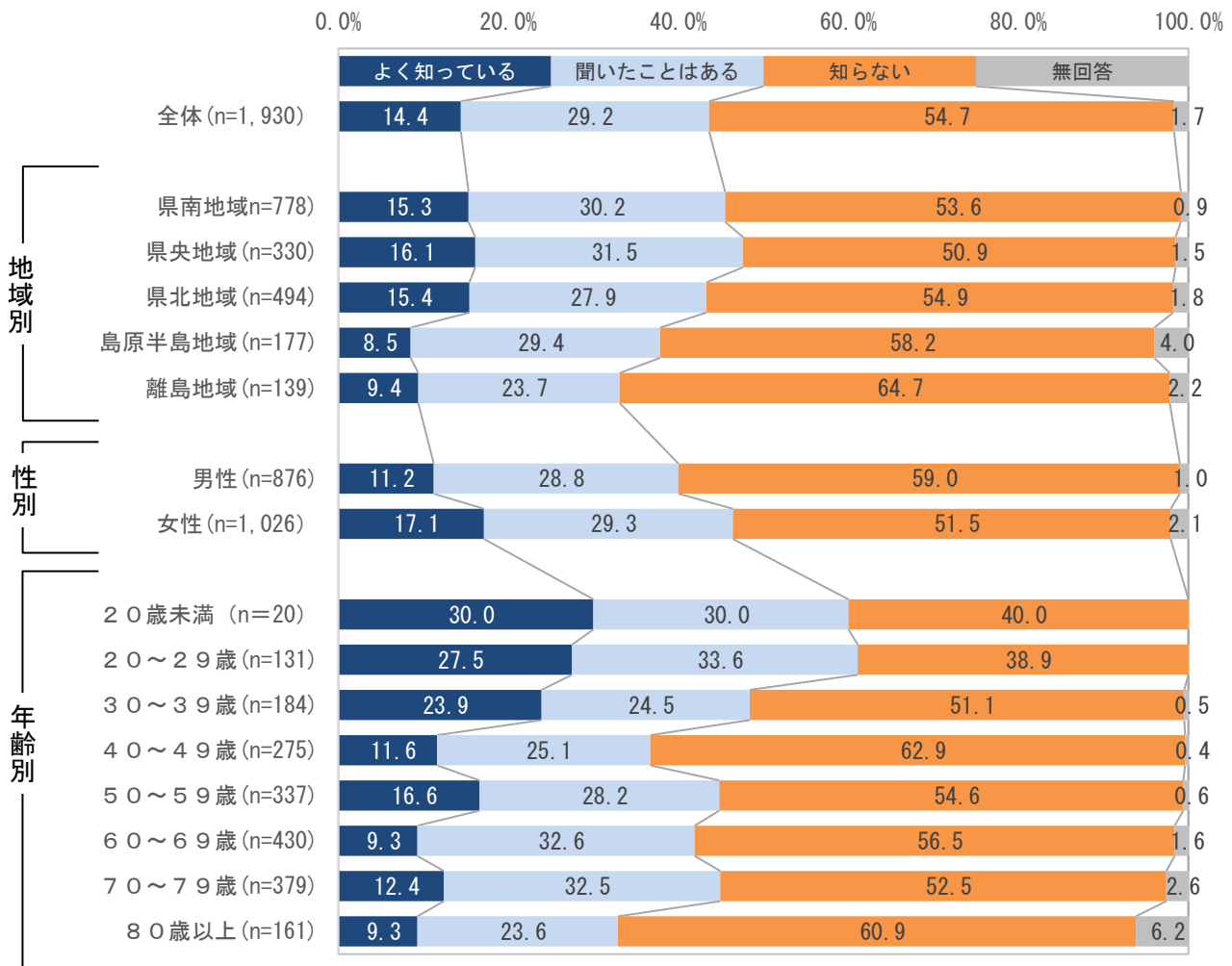
年齢別での認知度は、「20歳代」が最も高く55.7%、次いで「20歳未満」が55.0%、「30歳代」が47.9%と年齢の上昇とともに認知度は下がる傾向にある。

問 16

県では内部障害や難病等のため、外見からは分からなくても援助や配慮が必要な方が周囲に知らせるための「ヘルプマーク」や「ヘルプカード」の普及に取り組んでいます。あなたは、「ヘルプマーク」を知っていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「ヘルプマーク」・「ヘルプカード」の認知度は約 4 割



【全体】

「ヘルプマーク」や「ヘルプカード」について「知らない」が54.7%で最も多く、認知度（「よく知っている」+「聞いたことはあるが内容は知らない」）は43.6%であった。

【地域別】

地域別における全体の傾向との相違は見られず、認知度は「県央地域」が47.6%で最も高く、次いで「県南地域」が45.5%、「県北地域」が43.3%と続いている。

【性別】

性別でも全体の傾向との相違は見られず、認知度は女性の方が6.4ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別での認知度は、「20歳代」が最も高く61.1%、次いで「20歳未満」が60.0%、「30歳代」が48.4%と年齢の上昇とともに認知度は下がる傾向にある。

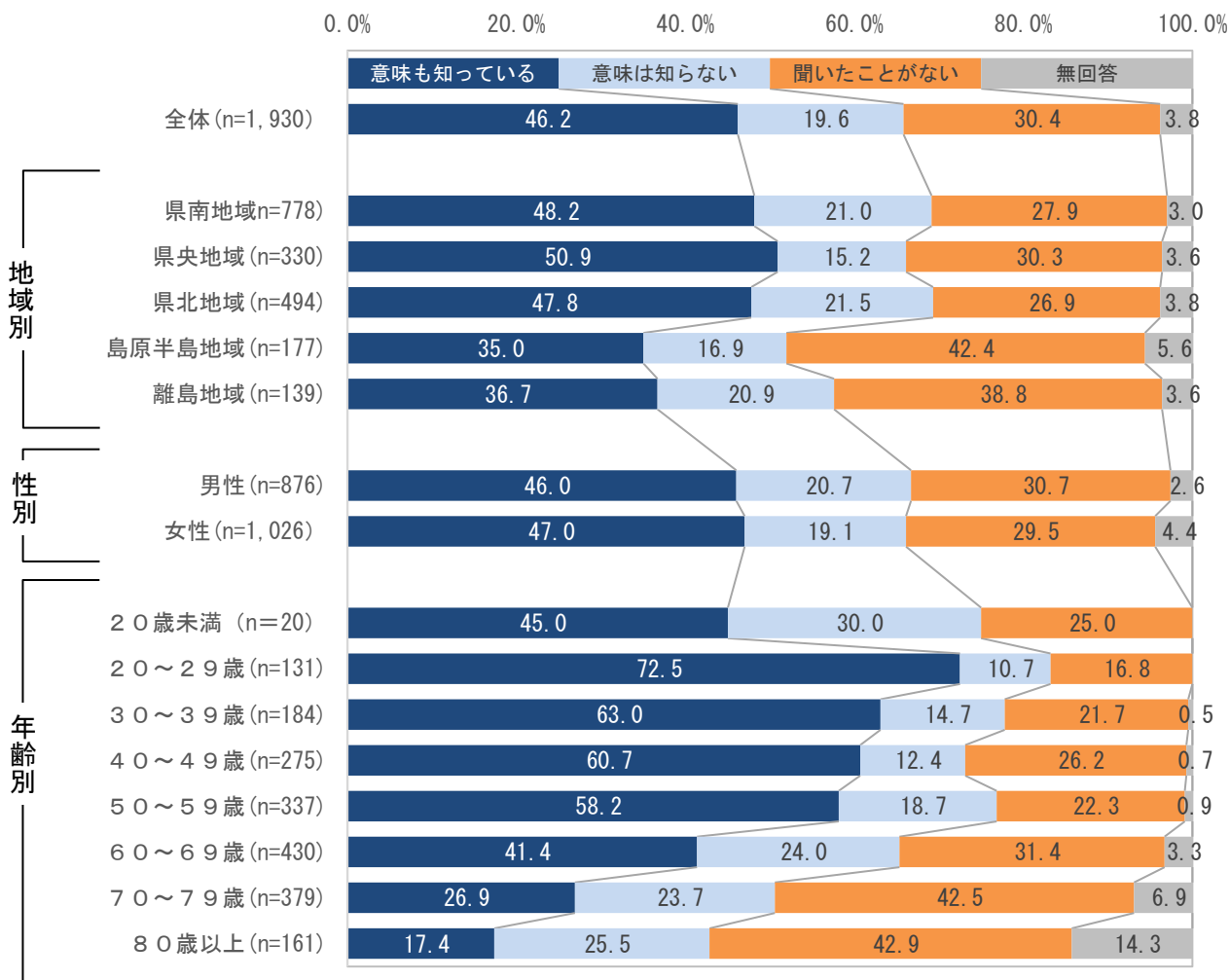
問 17

あなたは、性的少数者に関し、次の言葉についてどの程度ご存知ですか。  
(各〇は1つ)

LGBT

【調査結果 (ポイント)】

「LGBT」の認知度は約7割



〔全体〕

「LGBT」について「聞いたことがあり意味も知っている」が46.2%で最も多く、認知度（「聞いたことがあり意味も知っている」+「聞いたことはあるが意味は知らない」）は65.8%、「聞いたことがない」は30.4%であった。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は「聞いたことがない」が「島原半島地域」で42.4%、「離島地域」で38.8%とそれぞれ1位となっている。また、認知度は「県北地域」が69.3%で最も高く、次いで「県南地域」が69.2%、「県央地域」が66.1%と続いている。

〔性別〕

性別では全体の傾向との相違は見られず、認知度は男性の方が0.6ポイント高くなっている。

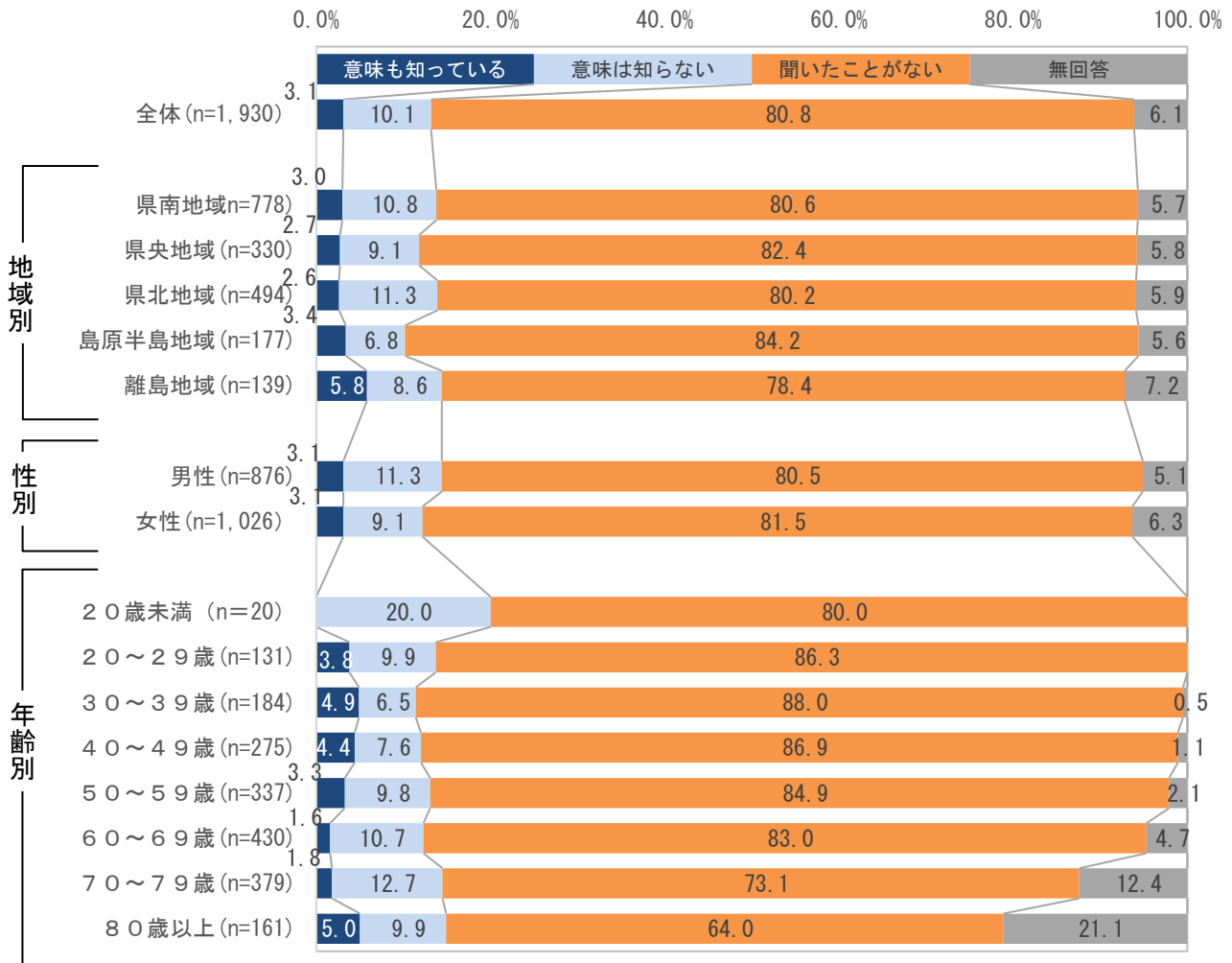
〔年齢別〕

年齢別での認知度は、「20歳代」が最も高く83.2%、次いで「30歳代」が77.7%、「40歳代」が73.1%と年齢の上昇とともに認知度は下がる傾向にある。

LGBT…性的少数者を表す言葉の一つであり、レズビアン (L)、ゲイ (G)、バイセクシュアル (B)、心と体の性が一致しないトランスジェンダー (T) の頭文字をとってそう呼ばれている。

【調査結果（ポイント）】

「アライ」の認知度は約 1 割



【全体】

「アライ」について「聞いたことがない」が 80.8%で最も多く、認知度（「聞いたことがあり意味も知っている」+「聞いたことはあるが意味は知らない」）は 13.2%であった。

【地域別】

地域別における全体の傾向との相違は見られず、認知度は「離島地域」が 14.4%で最も高く、次いで「県北地域」が 13.9%、「県南地域」が 13.8%と続いている。

【性別】

性別でも全体の傾向との相違は見られず、認知度は男性の方が 2.2 ポイント高くなっている。

【年齢別】

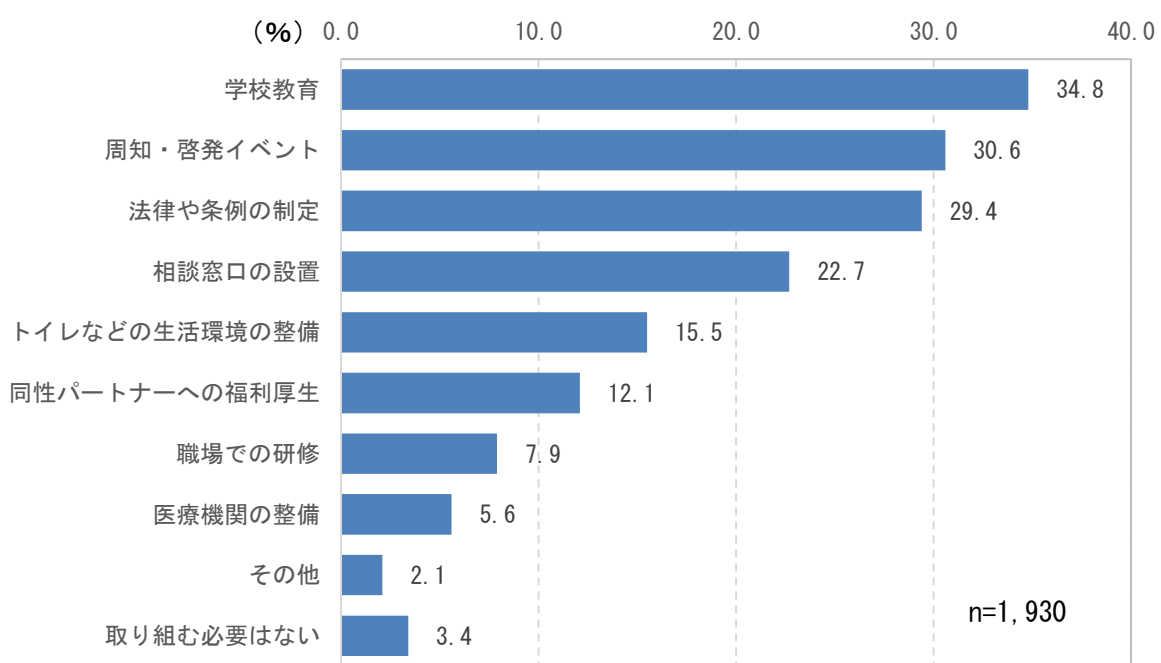
年齢別での認知度は、「20歳未満」が最も高く 20.0%、次いで「80歳以上」が 14.9%、「70歳代」が 14.5%となっている。

アライ…LGBT に代表される性的少数者を理解し支援するという考え方やその考えを持つ人のこと。

あなたは、性的少数者への差別をなくすために大切な取り組みは何だと思いますか。  
(〇は2つまで)

【調査結果（ポイント）】

「学校教育」が約4割でトップ



〔全体〕

性的少数者への差別をなくすための大切な取り組みとしては「学校教育」が34.8%で最も多く、次いで「周知・啓発イベント」が30.6%、「法律や条例の制定」が29.4%の順で続いている。

〔地域別〕

地域によるバラツキは見られるものの、おおよそ全体の傾向との相違は見られない。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られない。

〔年齢別〕

年齢別で「学校教育」は年齢の上昇とともに減少傾向にあり、「周知・啓発イベント」は年齢に上昇とともに増加し「60歳代」を上限に減少に転じ、「法律や条例の制定」も年齢に上昇とともに増加し「40歳代」を上限に減少に転じている。



【地域別・性別・年齢別比較】

